

自己愛な人たち

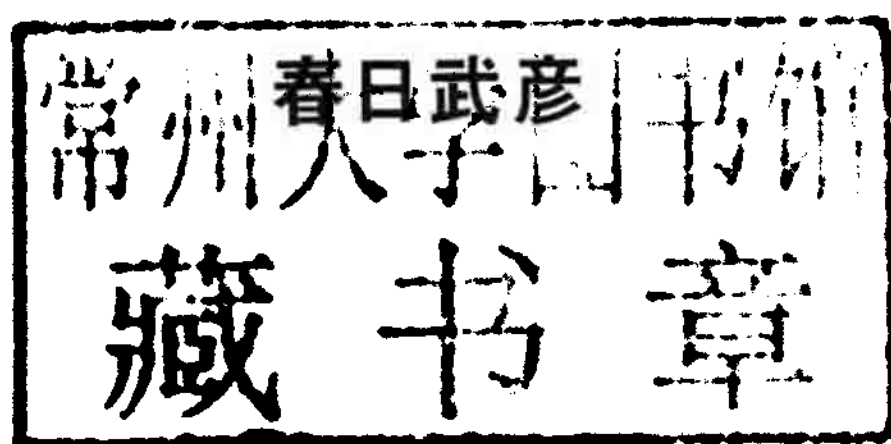
春日武彦



講談社現代新書

2160

自己愛な人たち



講談社現代新書

2160

N.D.C.493 185p 18cm
ISBN978-4-06-288160-9

講談社現代新書 2160

自己愛な人たち

二〇一二年六月二〇日第一刷発行

著者 かすが たけひこ 春日武彦 © Takehiko Kasuga 2012

発行者 鈴木哲

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽二丁目二二-二 郵便番号 112-8001

電話 出版部 〇三―五三九五―三五二一

販売部 〇三―五三九五―五八一七

業務部 〇三―五三九五―三六一五

装幀者 中島英樹

印刷所 大日本印刷株式会社

製本所 株式会社大進堂

定価はカバーに表示してあります Printed in Japan

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。〔R〕(日本複製権センター委託出版物)

複写を希望される場合は、日本複製権センター(〇三―三四〇一―二三八二)にご連絡ください。落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。

送料小社負担にてお取り替えいたします。

なお、この本についてのお問い合わせは、現代新書出版部あてにお願いいたします。



目次

まえがき

3

第1章 自己愛に似たもの

11

隣の会話／喜ばせたいわたし／自己愛とは何か／微妙なニュアンス／出窓のある家
／緑のセーター／メルヘンの人／泣く女／扇風機おばさんのこと

第2章 目立ちたがる人たち

39

徒歩暴走族／普通になりたい／タトゥー／虚ろなもの／芸名とペンネーム／躁状態

／盗作について／独裁者

第3章 折り合いをつける

可能性ということ／努力と謙虚／ミニチュアの滝／ミニチュアのランプ／空さん
的人生／灯台へ／名刺の話／異形の家

67

第4章 他人を巻き込む

アイスクリーム工場の男／入り口に座る男／ライバル、敵、賛美者／決め台詞／パ
ーソナリティー障害ということ／バリトンの声／黒い蟹／退院／毒

97

第5章 変装する自己愛

世界が切り替わる／つまらない／二種類の自己愛／共食い／屈託のこと／引きこもる／気分が沈む／自分を傷つける

125

第6章 持て余す自己愛

青い魚／毒ナマコ／石とナマコ／残念な人／顎を突き出す／二丁拳銃／原色、のようなもの

155

あとがき

183

自己愛な人たち

春日武彦

講談社現代新書

2160

まえがき

たとえばわたしが寄席に出ている紙切り芸人だつたとする。得意な題材を銚はさみで切り抜いてみせるだけではなく、客からリクエストを受けつけなければならない。闇夜のクラスミたいな無理難題を頓知とんちで切り抜けてみせてこそ、芸人の真骨頂であらう。手先が器用なだけでは、紙切り芸人は務まらない。

意地悪な客が、「自己愛！」とリクエストをしたらどうだろう。実際にはあり得まいが、精神科医のパーティーの余興で呼ばれたらそんな「お題」も皆無ではないかもしれない。紙切り芸人のわたしは「ひよつとしてナルチシズムってやつですか。難しいことをおっしゃいますねえ」などと遜へりくだった口調で薄笑いを浮かべつつ、必死に頭を働かせるだろう。リクエストした客の横顔を切り抜いて「はい、自己愛のカタマリでございます」とでもやってやりたい欲望に駆られるが、それでは芸人としてまずいだろう。

今日のお客様たちはインテリでいらっしやいますねえ、などと齒の浮くような世辞を口

にしながら作品を仕上げる。切り抜いた黒い紙を白い台紙に重ねると、カラオケでマイクを握って熱唱するオヤジの姿である。マイクを握りしめている右手の小指がぴんと立っている。そこを指差しながら、「はい、この部分が自己愛でございます。お粗末さま」とおどけた声で言うと、白けた笑いと疎^{まば}らな拍手が起こる。

紙切り芸人のわたしは、自己愛と自己陶醉とを結びつけてとりあえず作品を仕上げたわけである。本当は、いささか安直だったなと自分でも苦々しく思っている。芸人としての自己愛を十分に満たせなかったことに、内心うんざりしている。家に帰ってから、もっと別な「回答」はなかったろうかとあらためて考えてみるも、思いつかない。未練がましく考えながら晩酌を始め、結局、手酌を重ねるうちに泥酔して眠ってしまった——と、そんな愚にもつかないことを、なぜか本書を執筆する前に想像したのであった。

キーワードを書き出したり、資料を揃えたり、章立てに頭を絞ったりしながらも、なかなかイメージがまとまらない。自惚れとか自画自賛といった側面もあれば、出しゃばりが目立ちたがりで賞賛を求めてやまないといった側面もあるし、世の中は自分が中心で他人の気持ちなんかどうだって構わないといった勝手な側面もある。そのいっぽう、自己肯定には自己愛が必要だし、他人を思い遣る余裕だって結局は自己愛を基盤にしているのでは

ないか。自分を大切にできない人物は、あまり信用する気になれない。

というわけで、自己愛について考えていくと、相反する意味合いが出てきたりさまざま
な文脈で考察する必要が出てきたり、まことに手強い。

動物に自己保存の本能はあっても、自己愛はあるのかという疑わしい。我が家の猫
(名前は《なると》、ナルシストの略である)を観察してみると、四本脚の、毛むくじゃらな自己
愛そのものみたいに映ることもあるが、やはり当方の思い入れに基づいた錯覚に過ぎない
気がする。おそらく自己愛は人間に特有の複雑で厄介な要素だろう。人間のグロテスクさ
や気味の悪さも、自己愛の歪みゆがが大きく関与している可能性が高そうに思える。そんな予
感を頼りに、手さぐりで本書を綴っていった次第である。紙切りよりは奥行きのある話を
展開できれば嬉しいと考えている。

目次

まえがき

3

第1章 自己愛に似たもの

11

隣の会話／喜ばせたいわたし／自己愛とは何か／微妙なニュアンス／出窓のある家
／緑のセーター／メルヘンの人／泣く女／扇風機おばさんのこと

第2章 目立ちたがる人たち

39

徒歩暴走族／普通になりたい／タトゥー／虚ろなもの／芸名とペンネーム／躁状態

／盗作について／独裁者

第3章 折り合いをつける

可能性ということ／努力と謙虚／ミニチュアの滝／ミニチュアのトランプ／空さん
的人生／灯台へ／名刺の話／異形の家

67

第4章 他人を巻き込む

アイスクリーム工場の男／入り口に座る男／ライバル、敵、賛美者／決め台詞／パ
ーソナリティー障害ということ／バリトンの声／黒い蟹／退院／毒

97

第5章 変装する自己愛

世界が切り替わる／つまらない／二種類の自己愛／共食い／屈託のこと／引きこもる／気分が沈む／自分を傷つける

125

第6章 持て余す自己愛

青い魚／毒ナマコ／石とナマコ／残念な人／顎を突き出す／二丁拳銃／原色、のようなもの

155

あとがき

183

第1章 自己愛に似たもの